

[◀ Back to previous page](#)

地域における主観的認知障害とApoE E4とアルツハイマー病発症との関連

Research Project

Project/Area Number	18H00034
Research Category	Grant-in-Aid for Encouragement of Scientists
Allocation Type	Single-year Grants
Review Section	1160:Sociology, psychology and related fields
Research Institution	Kanazawa University
Principal Investigator	柚木 颯穂 金沢大学, 附属病院, 技術補佐員
Project Period (FY)	2018
Project Status	Completed (Fiscal Year 2018)
Budget Amount *help	¥530,000 (Direct Cost: ¥530,000) Fiscal Year 2018: ¥530,000 (Direct Cost: ¥530,000)
Keywords	自覚的認知障害 / 認知症 / 早期発見

All

Outline of Annual Research Achievements

主観的認知障害(Subjective cognitive impairment ; SCI)は将来的な認知機能低下に寄与することが明らかになっているが(Garcia-Ptaceka S. et al, 2016)、SCIを測定する方法は統一されておらず、どのような方法が最も精度が高いのかわかっていない。また、アルツハイマー病の危険因子であるApoE E4とSCIとの関連は明らかになっていない。したがって本研究は、SCIの程度の強さや内容とApoE E4有無と将来の認知機能低下の関連を明らかにすることを目的とした。金沢大学脳神経内科では2006年より石川県七尾市中島町で認知症コホート研究を実施している(中島町研究)。2007~2014年に中島町研究の脳健診を受診し、正常認知機能と判定された高齢者のうち、SCIに関するアンケート(「人の名前が出てこない」、「ものの置き忘れ」など7項目について「ない: 0点」、「時々ある: 1点」、「よくある: 2点」のいずれかを選択する形式)に回答した方(n=1486)について追跡調査を行なった(平均追跡期間7.2年)。追跡できた904例(追跡率61%)について、ApoE E4有無別にそれぞれのSCIに関するアンケートと認知機能悪化との関連を検討した。ApoE E4保有者では、認知機能悪化に対する「ものの置き忘れ」のオッズ比(95%信頼区間)は、「ものの置き忘れ」が「ない」ことを基準とした場合、得点が1点上がる毎に2.94(1.18-7.31)であったが、ApoEE4非保有者ではこの関連を認めなかった。ものの置き忘れに関するSCIがあり、ApoE E4保有の高齢者は、将来の認知機能低下リスクが高いことが示唆された。

Report (1 results)

2018 Annual Research Report

Research Products (2 results)

All 2018 Other

All Presentation Remarks

[Presentation] もの忘れの自覚の強さと将来の認知症発症リスク増加との関連 : 中島町研究

2018 ▼

[Remarks] 金沢大学脳神経内科ホームページ

▼

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-18H00034/>

Published: 2018-04-23 Modified: 2020-03-17